

2019年度第2回阿波おどり運営協議会議事録

開催日時 令和元年9月26日(木) 午後3時～

開催場所 徳島市中央公民館3階 302会議室

出席者 委員23名(内代理6名、欠席2名) 事務局5名 事業体4名

1 開会

2 委員交代紹介

3 代理出席及び欠席者紹介

4 議題① 2019阿波おどり開催結果について

【事業体】

資料1 2019阿波おどり事業結果見込報告書

資料2 阿波おどり一般客アンケート集計結果

上記資料について説明

【A 委員】

観光誘客や阿波おどりの振興ということで、国内外で色々な方へのPRや営業活動に行っているところである。営業活動を行う中で、現地のエージェントなどから色々意見をいただいている。そういった意見を踏まえて、また実際に観光PRも含めて両国橋南おどり広場で、運営にも携わらせていただいているので、現場で感じたことも含めて話ができればと思う。旅行エージェントから、阿波おどりの中でもお客様の思考設定が多様化しているので、例えば栈敷席のクッション性やアメニティー環境についても少しずつでも向上を図ってもらいたいという意見をいただいている。また、徳島県内にも外国からのインバウンド客が増えており、宿泊されるお客様も増えているので、多言語での表記や多くの通訳ボランティアスタッフに協力いただけるような体制の強化が益々必要になってくると考えられる。

また、旅行業界の情勢から言うと、「チケット販売のタイミングがもう少し早くできないのか。」「阿波おどりの開催期間が確定するタイミングが早ければ早いほど、旅行商品として、色々なPRができる。」といった意見もいただいている。

最後に両国橋南おどり広場の運営を行って感じたことは、8時前後に両国橋南詰めの辺りでは、人通りがいっぱいになり、お客様の身動きがとれない状況になる。一番混雑時

期では危険な状態だと想定されるので、お客様を分散させるような工夫、改善も必要ではないかと感じた。

【B 氏】

今年も例年通り、両国橋南詰おどりロードは非常に大勢の人で賑わっていた。夕方6時から交通規制が始まるので、5時頃からロードのごみ箱等の準備を行っている。今年は民間委託で事業体のスタッフ1名を派遣していただき、踊り期間中午後6時から10時半までの間、ゴミ箱がいっぱいになったら片づけ、有名連が踊って来られた場合には世話、また、苔作などの連も非常に多く来るので、その世話をしていただいたおかげで運営をとでもスムーズに行うことができ、良かったと思う。

【C 委員】

8月14日の中止判断に基づき、提灯・看板等が撤去された。道路に飛散する可能性があるものは事前に回避でき、交通への影響、二次被害への影響が少ない、適切な判断であったと認識している。

雨天時のリスク対応について、例えば、屋外の阿波おどりはできないが室内は活用できる、この場合には、どのような運営を行うのか、また、交通渋滞や駐車場の問題もあるので、雨天時の運営についてもシミュレーションなど考えておく方が良いと思う。

【D 委員】

阿波おどり運営について、不便だと感じたことが無く、昨年通りの進み具合で良かったと思う

【E 委員】

今年度13日に初めて8K中継というものをさせていただき、想定していた以上に、2Kハイビジョンの撮影とは違う部分が必要だったという事で関係者の方々には本当に色々迷惑もかけ、助けていただきお礼申し上げたい。

私は今年6月に徳島に着任して、初めて阿波おどりを見させてもらったが、阿波おどりの有名連の演舞、総おどりもやはり素晴らしい。徳島の魅力を紹介するコンテンツとしてやはり、これに勝るものは徳島には存在しないということを改めて感じた。その一方で東京高円寺の阿波おどりが関東では存在感を増しており、先日東京に戻った時に高円寺阿波おどりの放送をしていた。阿波おどりという単語だけで言うと、コンテンツとしてのライバルはやはり東京の阿波おどりになると思う。ということは、徳島の阿波おどりの魅力をどのように発信するのか。これはおそらく阿波おどりだけでなく、開催期間中に徳島に来て阿波おどり以外の徳島の魅力に触れるという仕掛けをより多彩に検討していく必要があると率直に感じた。

【F 委員】

シャトルバスの観点から話ができればと思う。先ほど共同体からの総括でこれまで以上に積極的に旅行業界に営業を行うといった話があったが、我々としても賛成である。今までどちらかと言うとチケット販売、旅行業界に対しては受け身だったと思うので、民間

が運営をすることになったので、積極的に営業展開を図っていただきお客様を増やす作業をしていただけたらと思う。ただ、シャトルバスについて、県外から来られたお客様が河川敷やマリナーミナルに車両を置いてシャトルバスを利用しているイメージを持っているかと思うが、実は貸切バスで旅行業界がツアーとして、徳島市内でお客様を降車した後バスが河川敷駐車場、マリナーミナルに待機して待っている。その降ろしたお客様がシャトルバスを利用して待機しているバスに乗って帰るといった流れになっている。要は60台県外から貸切バスが来れば、60台に乗って来たお客様もシャトルバスを利用して各駐車場に帰っているという実情がある。貸切バスは降車のみで、乗車はシャトルバスを利用して各地の駐車場へという流れの中で、8月12日であれば、渋滞によって徳島市立体育館の方で1,000人の行列ができた。渋滞すればバスの回転が当然悪くなる。また、旅行業界のツアーでは、1部を見られるお客様が多数を占めているというイメージを持っている。県外から来て8時半にシャトルバスを利用して駐車場に帰って9時頃で、各県に帰ると日にちが変わるぐらいになり、または宿泊施設に入ったとしても遅い時間の宿泊になるので、どうしても1部に集中してしまうという今までの流れがあるので、旅行業界に営業するにあたって、2部を促進できるようなメリットを与えるなど、シャトルバスはあくまで一般ユーザーの方だけに絞って団体バスが迎えに来るような方法等も考えれば、また違ったスムーズなシャトルバスの運行ができるのではないかと考えている。私も8月13日現場で整理させていただいたが、やはり1部が終了すると県外から来た団体ツアーの方がほとんどである。一般で来られている方は阿波おどりの町並みを楽しんで最終遅く帰って来られる方が多かったように思う。この部分は渋滞や、行列を招くなど、シャトルバスの観点からは考えているので、ここに何とかバス協会としても今までシャトルバス運営に携わってきているので、建設的な意見交換等を行い、少しでも負担を減らし、スムーズな運営を望んでいる。来年の期間までにバス協会に相談いただければ、今までの経験とか踏まえて何かできるのかなと思うので、参考にして頂けたらと思う。

【G 委員】

消防局では毎年阿波おどり特別警戒を敷いているが、今年度も救急以外の大きな事故もなく、無事に終えることができた。

参考ではあるが、救急件数は12日が10件、うち熱中症は3件。13日も10件、うち熱中症が3件であった。これを見ると熱中症に関する広報についても周知する必要があると考えられる。当日に現地を歩いて見回ったが、外国人の方が年々増えてきているように見えるので、今後外国人の方に対する対応も万全に期していきたいと思う。

【H 委員】

演舞場について、阿波おどり保存協会は合同踊りにチャレンジしたが全く問題なくスムーズに演舞場に入ることもでき、楽しく踊ることができた。

チケット販売方法について、販売率が低かったのは残念に思う。何かしらの対応が必要かと思う。

参加費について、参加費が必要なお祭りは日本中に沢山あると思うので、問題はないと思う。

【I 委員】

企業連として8月14日に踊り込むように予定をしていたが、台風ということで県外の参加者が多く迷っているところに早めに中止決定していただき、大変有難かった。

【J 委員】

宿泊業からすると、阿波おどりの4日間が2日間になるという事はお客様が半分になるという事になる。今年度に関しては非常に残念であったと思うが、これは天災なので恨み言を言っても仕方がない。安全を最重要視して頂いて中止というのは致し方ないと思っている。来年度以降に関しても、天候によっては、前夜祭を含む5日間のうち1日ぐらいいは中止が出てくる可能性がある。そのような形をある程度想定していかなければ、4日間丸々開催するのは非常に厳しいと思うが、宿泊業界はあくまで4日間というスケジュールで予定を組んでいるので、どのような形で開催するのか、規模を拡大するまでもなく、お客様を少しでも徳島へ来ていただくよう考えていければと思う。

それと今年度について、日帰りのバスで来られる方が少し減ったように感じた。夕方4時ぐらいから夕食を食べられて、1部の公演を観て、そのまま大阪方面へ帰るという、予約状況が去年ぐらいから少しずつ減っているように感じる。宿泊に関しては、キャバが限られているので、これ以上は提供できないという部分はあるが、やはりチケットの売り上げ枚数からしても、日帰りで来られる大阪方面や岡山方面の地域に対する営業をどんどん行う必要がある。チケット販売枚数で言うと、そういった部分での営業が少し今年度に関しては遅かったのではないか。旅行会社から、今年は阿波おどりが開催されるのかという問い合わせを6、7月にいただいていたので、ゴールデンウィークよりも前に、できれば年が変わる前後ぐらいに、今年はどういった形で開催するという事業計画を立てて、宣伝を行っていただくようお願いしたい。

【K 委員】

毎年、町内の栈敷が設営されるので観察している中で、初日は満席であるが、あとの3日間はどうしても2部の空きが酷く、本当に市内に演舞場が4つ必要なのと感じた。両国通りの自由広場の辺りが人でいっぱいであることから考えて、本当に見に来ている人が有料の演舞場を現在の数だけ必要にしているのか。栈敷を設営するのに多額の費用がかかると聞いているので、1つ減らしてみてもどうかと思った。

【L 委員】

両国本町演舞場は世界一長い演舞場という事で、踊る方は大変だが、迫力があつたと思う。それが駐車場などの関係で以前より短くなっている。今年気づいたのは、演舞場が短くなったため、本部席の位置がバランス悪くなっていた。現在の長さでいくのであれば、本部席を動かしてもらうか、商店街的には昔の長さに戻してもらって、世界一長い演舞場とPRしたいという気持ちもある。

今年は両国本町商店街の事業として、高円寺のパル商店街と友好商店街を締結して、13日の踊りの前にイベントを開催した。高円寺の合同連には両国本町演舞場でも踊っていただいた。そのおかげで、14、15日が中止になったが高円寺の合同連は13日によく踊れたので凄く感謝して帰られた。早い中止も飛行機の手配などで凄く喜んでおられたので、良かったと思う。

両国本町の棧敷に簡易トイレを配置してあるが、コンビニだけでは対応できないトイレの利用があるので、観光客の方、特に子供や若い女性の方がスムーズに使えるようなトイレを配置していただけたらと思う。

【M 委員】

棧敷の構成について、私自身も数年前まで阿波おどりをしており、棧敷の中を踊るのも楽しいが、最も楽しかったのが輪踊りであった。正式に輪踊りのエリアを数カ所設置してはどうか。例えば輪踊りの棧敷ごとに学生や市民ボランティアで運営してそれぞれが演出を企画し、お客様が観たいとか踊りたいと感じとれるような場所を作るのはどうか。

販売方法について、私も小さい頃は郡部の育ちで阿波おどりが非常に楽しみで仕方がなかった。最近では実家の方に帰って話をしても、阿波おどりに行ったという人が非常に少ないように思う。徳島県は高齢化が進んでおり、高齢者はパソコンも使えないし、コンビニもあまり行かない。チケットが欲しいと思った時は誰かにお願いして頼むということがメインになるかと思う。それが地元の阿波おどり離れの一因となっているのではないかなと思う。電話購入もできると思うが、そもそもこれらの情報も Web ページを見たり、パンフレットを入手しなければ分からない。高齢者の皆様が入手する機会は少ないと思うので、例えば阿波おどりの PR やチケットの購入方法を印刷したものを新聞に折り込みして周知をするのはどうか。少なくとも、家庭で阿波おどりについて話す機会が増えると思う。

また、徳島駅から阿波おどり会館へと続くまっすぐな道を阿波おどりのメインストリートにしてはどうか。踊り当日の阿波おどり会館の付近は、何か町外れに来たような感じがして非常に暗くて寂しいような気がする。せっかくのまっすぐな道なので国道とか太い道路があって交通対策が大変だとは思いますが、この道の棧敷を連なって設置し、メインストリートを中心とした踊りの場所を再構成するのも良いのではないかと思う。

【N 委員】

阿波おどり本番では中央警察署員、警察本部や機動隊からの応援を得て、警備に従事したが、特に大きな事件、事故もなく終了した。警察としては、阿波おどりに伴う雑踏事故の未然防止に努めるべく、雑踏事故の危険性が高い状況があれば見物の方や踊り子の方の安全を最優先に対応したいと考えている。これからも関係者による事前協議を十分に重ねていき、安全安心して楽しんでいただける阿波おどりになるようお願いしたい。

【O 委員】

今年の文理連の学生は6割を超えて県外の学生になる。4月に入って初めて阿波おど

りの練習を始めて、7月、8月本番までに1年生はそれなりの踊りを身につけて、2年生、3年生、4年生になってくると、だんだん上手くなっていくという、本学の場合は部活動なので練習というのは1年を通して行っている。今年は後半2日がむずかしい状況の中、12日が最後だということで、学生もそれを十分覚悟はしており、最後の踊りだという事で非常に力を入れて彼らのエネルギーを発散させて頂いたという意味では、今年はわずか2日間でしたけれども、学生にとっては良かったと思う。また毎年、12日に盲導犬のハーネス連と踊りをさせて頂いている。盲導犬、目の悪い方と一緒に踊れるという事で、学生にとっても非常に有意義な踊りになっていると思う。

棧敷で踊ることに対して、大学の場合は1日5,000円、4日出ると20,000円という事で少し苦しいが、お金を取るのであれば、全ての連から徴収するのが良いと思う。

チケット販売について、今年は残念ながら棧敷の中の空席が目立つという状況の中、市役所前演舞場で連が入るのを待っていると、県外のお客様がチケットを買い求めている。という事はチケットに空きがあるということは知らずに来られたのではないかと思う。各演舞場に販売所はあると思うが、当日県外から来られたお客様に対して十分なサービスができるような体制が整ったら良いという風を感じた。

【P 委員】

初めての運営ということで、施設利用について管理者ともトラブルがあったように聞いている。次年度以降は改善されるものと思うが、当方も注意して対応した。

一般アンケートにある要望については、可能なものは対応したい。

先ほど委員から女性が利用しやすい仮設トイレについて話があったが、既設の公共トイレがかなり混雑していて、個数についても検討いただきたい。

【Q 委員】

今年度は12、13日だけ開催をされた。台風が来ていたので、今年の2部が非常に空席あったのではないかと思う。2部を見るお客様は宿泊客が多いのではないかと思うが、台風を心配して、チケットを買ったが徳島へ行っても帰れないかもしれないということで、少し減ったと思う。

チケットが売れるということが、阿波おどりの魅力と相対しているので、チケットを売るということは大事なことだと思う。その点で108円という発券手数料がかかっているが、旅館協会からすれば、手数料をお客様から貰うことになるが、旅館側が手数料として取っているのではないかという捉え方をされているのではないかと感じるので、できればチケット料金に含めていただければと思う。また、2部の踊りを振興協会や保存協会といった方に頑張ってもらって、2部の魅力作りをしていただきたいと思う。

それから、駅前の総合案内所で宿泊の案内をさせていただいているが、その実績が毎年減っていると感じている。インターネットの普及で当然のことだろうとは思いますが、報告にとどめておく。

【R 委員】

会長から今年の阿波おどりについて、各委員からの意見や気がついたことを発言していただきたいということであるが、運営協議会そのものの在り方、また阿波おどりを成功に導いていくためにも、この会議を有意義に進めていただきたいと常日頃申し上げている。実行委員会に少しでも反映をしていただくということで、副会長には実行委員会に参加して、色々な意見を言っていただき前進をしたが、先ほどから委員の方々から出ている意見については、委員の方々が毎日の午後4時頃に集まり、前日の問題点等（各栈敷の運営状況など）細かい部分を報告いただき、当日対処できるような案件も数多くあるので、そのようなことを話し合っ進めてきたのが徳島市観光協会、徳島新聞社主催の旧実行委員会である、本来の在り方であると考え。また、来年に向けた取り組みというものについては、別途、決算報告を含む総括的な運営協議会を開催すべきであるし、各委員の方々の意見が実行委員会にお盆の当日毎日伝わらなければならない。実行委員会が雲の上の人みみたいな存在で届かない。

一昨年は実質的には約2,000万円の黒字が出ている。遠藤市長が4億3,000万円という赤字に着目して、徳島市の観光協会を破産に追いやり、市の血税を一銭も出さないという形で立ち上げたのが現在の実行委員会ではないのか。立ち上げた当初は2億6,000万円程度の総事業予算のはずであったが、今年は2億9,000万円になっている。この増額になっている3,000万円というのは、昨年度赤字の部分が約3,000万円あるため、それに上乗せした部分を総事業費の部分に織り込み、かつチケットの値上げ、そういったものを含めて収支を計画、予算化しているだけである。これは少し問題があるのではないか。わたしは阿波おどりそのもの自体が黒字でなければいけないと未だに思っていない。約50年間通じて4億3,000万円に関しては、べた割りにすれば年間900万円程度の赤字である。この2年間で実質的に2億円の赤字を出していると思っている。また、チケット販売については低迷をしているとマスコミに取り上げられているが、徳島新聞社が主催者枠として確保されていたのが以前は2万数千枚から1万数千枚だと思うが、今年は主催者枠がなかったと聞いている。ということはプラス1万数千枚あれば、3000万円弱の収入があることになる。そういったことはまったく論議されない。来年の阿波おどり自体をどのように考えているのか逆に聞きたいと思うし、会長の見解も聞きたいと思う。各委員の方々が言われた大切な意見が実行委員会そのものでなければならぬと思っている。

赤字を生んだ原因の一つの中には旧実行委員会の委員として十数年前に参画していた時に倉庫の問題についても、徳島新聞社に借りていた田宮運動公園の近くの倉庫を年間500万円支払って栈敷を保管していた。使用料があまりにも高いのでないかと冗談半分に言ったことがある。そういった中、約440万円の保管料にて東海運で保管するようになった。ところが4億3,000万の問題が明らかになった時に、その支出方法に問題があると会計士に指摘された1つに、新聞社と観光協会の間で、また、東海運との間で貸借関係、契約書がないということだ。どのように支払われていたかと言うと、約880万

円の使用料を徳島新聞社の名目で借りて、当時、徳島新聞社が面積の2分の1を使用していたため、使用料の半分である約440万円を観光協会が支払うようにペーパーだけを出していたことが明らかになった。本来は実行委員会率いる観光協会が東海運と個別に契約書を巻かなければならないことではないのか。また、新聞社が撤退したのであれば、倉庫の使用料については、半分の値、面積割りで支払うのでいいのではないか。なぜそれを東海運に新聞社が契約した金額のまま約880万円を払うのか。今年も3月か4月の段階で1年の契約を実行委員会として、徳島市が立替払するような形として、それを事業体に支払うように仕様書の中に明確に入っている。こんな馬鹿げた話はない。そういったところになぜ無駄金を使うのか。そして先ほども、旧実行委員会で委員長に倉庫の使用料が支払われていることについて指摘していたと言ったが、現在も同じように実行委員会重要ポストにある栗飯原社長率いる東海運のところにそれだけの金が流れていっているのは非常におかしいのではないか。なぜ、そういったところを追究しないのか。本来であれば運営協議会や実行委員会の中で協議をしていかなければならないのではないか。そして、この東海運の倉庫については、港湾事業としてその事業者に対する一定の配慮をして、県の財産をお貸ししていると思われる。以前に事務局に聞いた時にはこれ以下の金額は永続的に他はないと聞いている。永続的にと言うのであれば、県と市との間の中で倉庫代についても場合によっては無償提供なり減額措置をいただけるようなことを直接話したりすればいいのではないか。そうすれば少なくとも、年間約880万円が即浮いてくる。こんなところの話も具体的な部分を切り詰めていきながら、阿波おどり成功に向けてやっていかなければならないのではないか。

今年14、15日の中止判断をした事業体については非常に評価できると思う。宿泊関係のキャンセル料の発生する部分についても、知る限りのところについては、こういった状況の中でキャンセル料を取らなかったと聞いている。このような徳島の対応というのは非常に評価ができると思う。

踊りロードの問題について、やはりあの辺りは混雑する。苔作さんを中心に非常に人気があるので、ああいったところを棧敷に何とか活かせないかという提案を以前よりしてきた。

資料の中で1部がどれだけ売れて2部がどれだけ売れなかったか。幸いにも総踊りをさせていただいたところについては、前売り含めてほぼ完売に近い数字が出ているが、その他の部分については、従来よりも悪い数字しか売れていない。そして、プレミアム棧敷についても、非常に踊り込む時間について問題があると苦情があった。この部分については最初から、警鐘している。100mの棧敷に踊り込んで行くのに、大体10分ぐらいを目途にして、長いところでも11分で通過する。そのことを素人が考えると10分経たなければ、次の連が踊り込めないという考えをするから問題になる。いくら長い連でも6分経てば、大体本部席まで進んでいる。そこから次々に連を入れなければ、空白を招く。間延びするようなことはしてはいけないと、指摘申し上げている。そして、総おどりをする

ことに関してはベテランのスタッフを入れていただければ総おどりができなく、どうして声を大にして言ったかという、第1部の運営が10分、15分と遅れてくる、その遅れが第2部に入ってくる。10時までに抑えなければ、総おどりの30分間が出来ない。紺屋町については、10時30分を過ぎると交通規制を解除しなければならない。初日に総おどりを行った紺屋町についてはピリピリしたが、できるだけ10時に近い時間にスタートをさせていただいた。だからベテランを入れてほしいと言ってやっと総おどりができた。昨年したようなボランティアスタッフ中心に運営をしていたら、10時20分から始めるような形になり、総おどりは10分で止めなければならないようになっていた。そういったところは指摘したとおりの結果となっている。

費用の部分も含めて、この運営協議会が実行委員会に意見だけでも言えるような状態にさせていただきたい。意見が言えないのであれば、実行委員会そのものが必要ないのではないか。運営協議会自体が運営を任せられる中心の実行委員会的な役割をしなければならないのではないか。事業体に都会の垢抜けた考え方をに入れて頂いて、徳島の阿波おどりというものをインバウンド中心に発展させていただけるような期待は持っている反面、よそ者にこの町のイベントの運営をしていただかなければならないのかという気持ちも持っているという事を申し上げている。来年に向けて、決算を出していただきながら、第2部をどのようにするのか、トイレの問題もどうするのか、それから輪踊りの部分もどうするのか。まだ指摘したい部分もあるが、この運営協議会のステータスまでとは言わないが、そういったことも含めてお願いしたいと思う。

最後に参加費を各連から徴収することについて保存協会の代表の委員より、全国的に参加費はあるから問題ないという意見については反対である。本家大名連の清水氏が有識者会議に入った時に、その意見に賛成をして、参加費を徴収する事が決定された。その時には保存協会は有名連に入ってなく、県協会と振興協会の合計33連ということを知っていた。それをいかなるものかと前回の運営協議会の中で意見をしたら、県協会は50数連で全体70数連が有名連になった。苔作さんであるとか有名で非常に人気があり、技量もある連はたくさんある。前の協議会でも言ったように参加費の徴収で「有名連」との区別については、連同士で問題になってくるのではないかと指摘しているし、根本的に大反対である。参加費を徴収したことにより、無料演舞場の参加者が特に2部が少なくなっていることが、顕著に実績として現れている。全国的に参加費を取っていたとしても、徳島の阿波おどりみたいに棧敷に入るのにお金を取っているところはない。高円寺や南越谷ですら取っていない。南越谷の参加費というのは各連に運営協力のため、何人か人を出していただきたい、出せない場合はガードマン雇う費用として連からお金を徴収しているわけである。参加費を徴収するのであれば、棧敷の入場料を無料にいただきたい。アンケートの中にも有名連が20分に1回ぐらい来て欲しいというような切実なファンの声もある。有名連だけが僕は踊りでないと思っているが、やはり金を取って棧敷で踊りを見せる為にはそれなりの提供する商品というものを出品しなければならない。そういっ

たことを全般的に考えて今後運営しなければ阿波おどりの未来は絶対はない。私どもは踊る阿呆であり、色々言われた事は一生懸命やる。しかしながら、踊り子が気持ちよく踊られて、観客が気持ちよく見ていただいて感動できるようなシステムに改善しなければならない。事業体に負担をかけるかもしれないが、見直すチャンスである。民間に負担かけるだけであるから、今年の赤字運営も市長は成功だと言っていたが、こんな馬鹿な話はない。また、今年のような大赤字を出しても、500万円を事業体から取るのか。人間としてそんなことできないのではないかと思う。

倉庫の事も含めて、委員の皆様理解をしていただきたいと思います、色々とお話させていただきました。

【S 委員】

公共交通機関という事でお客様の輸送をしているが、それとは別に旅行代理店というような身分もあり、年に2回、5月と11月に商品の説明会という事で大阪を中心に、エージェント招いて四国の商品を説明している。その中の当然徳島と言うと阿波おどり、これは外すわけにはいかないという事で、阿波おどりを推している。今年の5月に説明会をしていると思うが、その時にこの夏の話ではなく、翌年の夏頃の話聞かれる。という事はエージェントはチケットを販売していかないといけない事になるので、エージェントが見てるのは1年半ぐらい先の商品を検討しているので、事業体としては大変だと思うが、少しでも早いチケット発売していただけるような形が良いと思う。

また、資料を見ると、2回以降のリピーターが77%もあり、初めての方が23%ということは、一度観ると感動が凄いというように考えている。本場徳島の阿波おどりを観ると、また来て頂けるという事もあるので、感動を与えるような仕組みがあればと思う。

13日にJR四国連という事で踊りに参加もさせていただきました。14日も参加予定だったが、生憎な天候となり参加できなかった。その時に町中で海外の方に、栈敷のチケットはどこで売っているのかという事を聞かれた。駅前にもチケット売場の案内看板を設置しているが、駅前のチケット販売や法被の貸し出し等の数が少なかったというところで、アピールが不十分だったと反省している。来年に向けて、徳島駅でも出来ることがあれば、色々協力させていただきたいと思うので、お声かけをいただければと思う。

【T 委員】

今回は事業体とマスコミ関係のテレビやユース報道の考え方の違いで、短期間だったので打ち合わせがメールと電話でしかできないということで、東京まで出張に行かせたりしたが、最後にはギリギリ間に合ったような感じなので、また来年に向けて色々話し合っていきたいと思う。

今年、各地の35社の社長をご招待して、藍場浜の1部を1時間程度ご覧いただいている。最初の有名連が踊ってから19時までまったく有名連が来ない。昨年まではこういったことはあり得ない。35社の社長が帰られた時に、2,000円を支払って、ダラダラ踊っているのを見たと言われると報告されると思うと悲しく思う。

【U 委員】

本学の学生連が予定どおりに台風関係なく当初より2日間予定していたので、阿波おどり空港の演舞から始まり、朝から晩まで2日間踊り抜いてくれた。学生からは、あちこちで激励もいただいて、非常に楽しく充実した時間を過ごせたと聞いている。

学生の引率ということで、一緒に歩いていたが、市役所前演舞場への行き帰りの道が非常に暗く、不安な感じがした。明るいLEDでも付けて通路をしっかりと確保できるようにしていただけたら、ありがたいと思う。また、5時ぐらいから移動したが、途中車が入ってきて、危険な状況になったことがあったので、もう少し早めに交通規制をしていただいた方がいいのではないかと感じた。

【V 委員】

先ほど、R委員からも色々な意見が出て、非常に耳が痛いと思っている。確かに言っていることは痛いほど分かる。各委員の方々はそれぞれのエキスパートである。阿波おどり全体に対して一番黒いのはR委員である。自分は偉そうなこと言っているが、副会長になって初めて、阿波おどりのノウハウ等を知った。私の場合は新町橋の運営を十数年間ずっと行ってきた。他の棧敷がどうなっているのは、わからない状態である。先ほどR委員の意見で、以前は反省会の意味で12日が終わった後に明日に向けての話し合いをしていた時期もあった。今年の運営協議会は何回開催されているのか。ここに出席されている委員の方々は事業体に阿波おどりを立派に運営していただきたいという同じ意見だと思う。ただ、事業体だけに任せたままでいいのかという感じでもある。

例えば私は運営協議会の副会長であるが、阿波おどりが14日から中止になったが、東京から踊りに来た連が東新町はアーケードがあるので踊れるということで、踊りに来てくれた。そうすると警察が来て踊ってはダメだと言われた。私はびっくりして、なぜ踊ってはダメなのかと揉めた。確かに後から話を聞いて、納得をしたが、運営協議会の委員であったとしても、そういった事も知らないような状態である。各委員の専門的な話も大事だと思うが、もっと阿波おどりをどのようなものかの話をしていくのがいいと思う。

【会長】

明日の実行委員会で、今日いただいた意見を伝えて、来年度の計画にできるだけ反映できるようにしていきたいと考えている。

以上を持って2019年度第2回阿波おどり運営協議会を終了とする。